

## 筑波大学・インドネシアのパジャジャラン大学と トマト育種に関する国際共同研究協定を締結



調印式 (パジャジャラン大学)  
本学江面教授 (左)と  
Dr. Ir. H. Sudarjat 氏 (右)



国際会議



講義終了後、記念撮影

左から、筑波大学修了生 Dr. Syariful Mubarak, UNPAD 講師  
星川 健 助教  
江面 浩 教授  
Vice Dean, Faculty of Agriculture, Ir. Anas, M.S.C, Ph.D

2017年8月3日、筑波大学は、インドネシアパジャジャラン大学 (Universitas Padjadjaran; UNPAD) と熱帯トマトの品種改良に関する共同研究協定を締結しました。本学のバイオリソースと知見を活用して、熱帯地域でも安定生産可能なトマトの開発を目指します。調印

式は、同日パジャジャラン大学にて開催された国際会議内で行われ、本学からはつくば機能植物イノベーション研究センター長・江面浩教授が参加し、パジャジャラン大学の Faculty of Agriculture の Dean, Dr. Ir. H. Sudarjat, M.P と協定を締結しました。また、国際会議では、江面教授を含め3名が発表を行い、150名ほどの学生・研究者が参加し、活発な質疑応答が行われました。また、国際会議、前日8月2日に講義が行われ、本学江面浩教授および星川健助教が発表を行いました。